

咲洲・夢洲地区のまちづくりの基本的考え方

『南・東アジアとの交流・交易拠点として、
高付加価値ものづくり産業の発展を支えるまちづくりをめざします。』

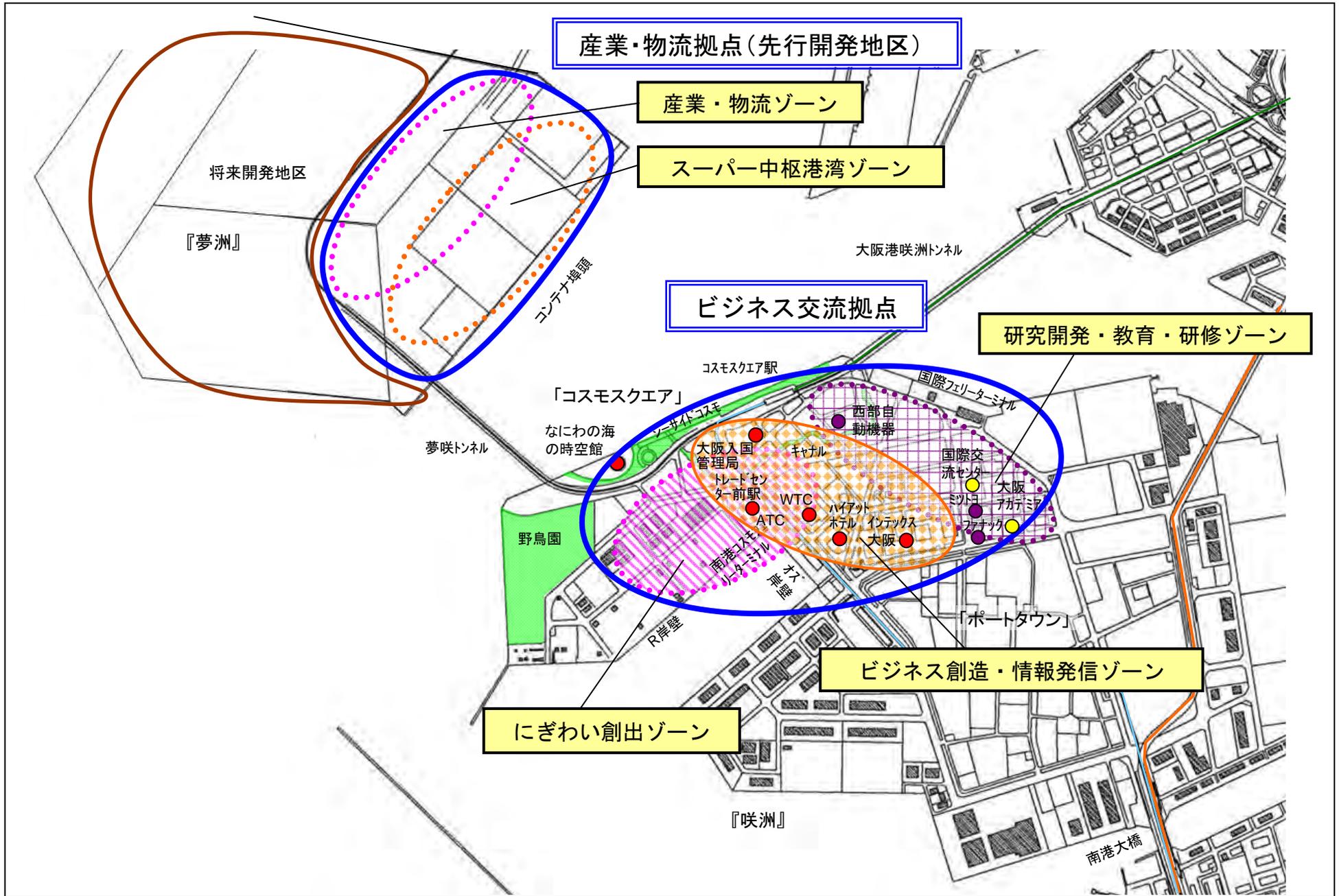
《咲洲コスモスクエア地区》

- ものづくり企業のアジア交易・交流の拡大に資するビジネス交流拠点の形成
- まちの魅力の向上に資するにぎわい創出と安全・安心の環境整備

《夢洲地区》

- ものづくりの高付加価値化を支援するアジア交易の産業・物流拠点の形成（先行開発地区）

咲洲・夢洲地区のゾーニング

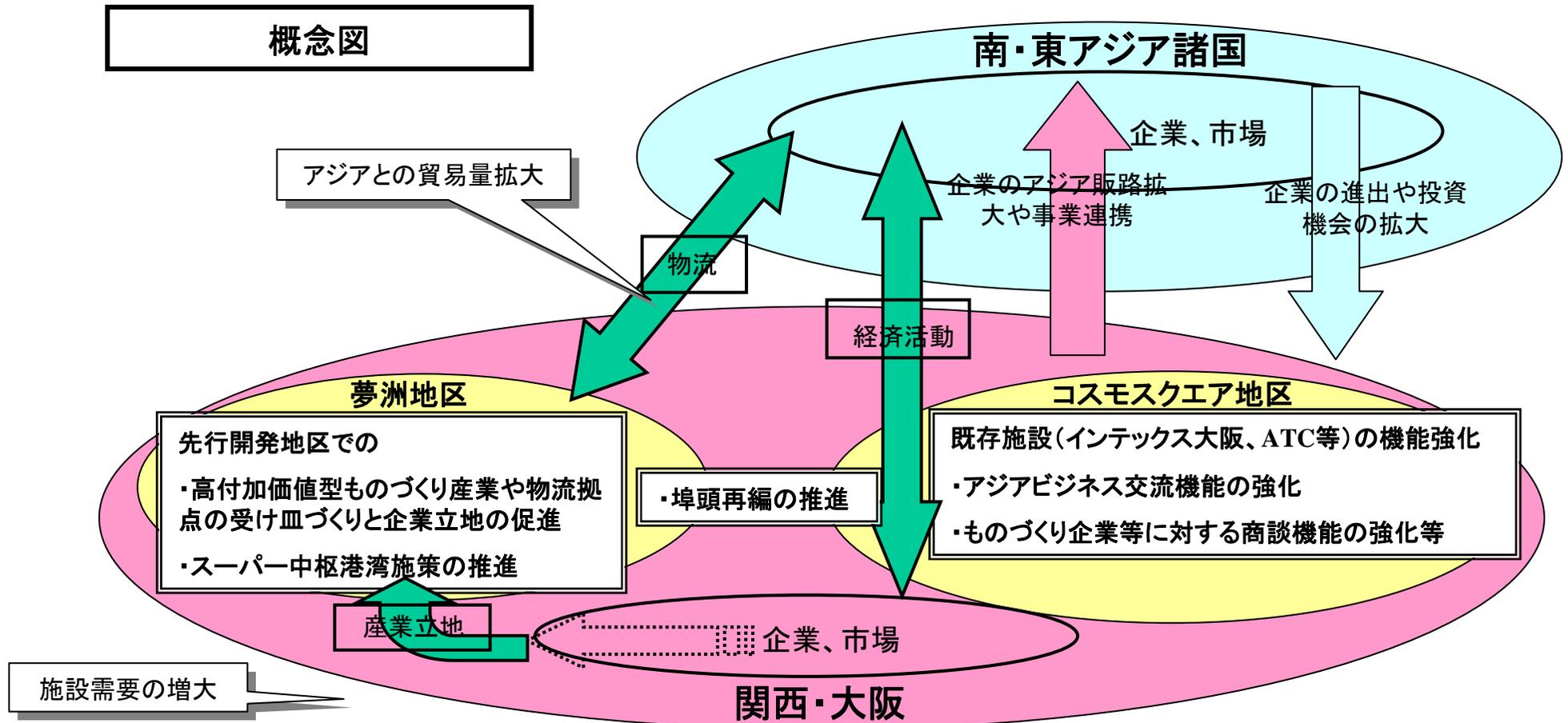


5.まちづくりの実現に向けた取組みの基本的な考え方

①夢洲、コスモスクエア地区での関西のものづくりの強みを活かす取組みとして、

- 1)コスモスクエア地区でのビジネス創造・情報発信を行う拠点形成を目指した既存施設の機能強化
- 2)夢洲の先行開発地区での産業・物流拠点の形成を目指した受け皿づくりと企業立地の促進
- 3)ものづくり産業の国際競争力強化に必要不可欠な物流インフラの充実を目指したスーパー中枢港湾や埠頭再編の実現といった大阪港の物流機能の強化

概念図



②コスモスクエア地区の企業等の立地促進のための取組みとして、

企業等の
立地促進

- ・咲洲コスモスクエア立地促進助成制度の充実
- ・民間も含め、未利用地の地権者による、まちづくり推進検討チームの設置

③コスモスクエア地区のまちそのものの魅力の向上を目指し、安全・安心や賑わいづくり
といった環境整備のための取組みとして、

安全・安心

- ・大型車の渋滞緩和に向け、平成20年代前半を目標とした埠頭再編の実現による交通量の総量抑制
- ・WTC、ATC～コスモスクエア駅間周辺的环境改善を目指し快適な歩行者空間形成に向け、歩車分離に資するペデストリアンデッキ(高架等によって車道から立体的に分離された歩行者専用の通路)の整備 等

賑わいの創出

- ・埠頭再編の一つであるR岸壁フェリーターミナル化の推進と、中長期的にR岸壁背後地など地区西側等の土地利用のあり方などを検討
- ・コスモスクエア開発協議会でのルールの見直しによる良質な景観形成の検討

交通利便性の
向上

- ・大阪港咲洲トンネルの利用料金の見直し
- ・道路案内板の改良や駐車場案内板の増設等
- ・地下鉄乗り換え案内の充実 等

6. 具体的な取組み

《夢洲地区》

◎先行開発地区での産業・物流拠点の形成に向けて p.18

◇スーパー中枢港湾施策と基盤整備の推進

- ・夢洲コンテナ埠頭の整備など

◇効果的な企業誘致策の検討

- ・誘致対象業種の選定やインセンティブの検討

《コスモスクエア地区》

◎ビジネス交流拠点の形成に向けて p.19~20

◇商談機能の充実、アジアビジネス交流機能の強化

- ・アジア地域のニーズを捉えた販路拡大支援システムの構築
- ・アジア諸国の公的機関の立地誘致
- ・ものづくり関連の見本市や展示商談会の開催誘致
- ・コンベンション機能の充実(サイボス2012に対応できる設備改善等)

◇企業等の立地促進 p.21

- ・コスモスクエア立地促進助成制度の充実
(土地代の3割補助(H21.3まで⇒H24.3までに延伸など))
- ・民間も含め、未利用地の地権者によるまちづくり推進検討チームの設置
(まちづくりの行程表を作成し推進)

◇WTC,ATC~コスモスクエア駅間周辺環境改善 p.22

- ・ペDESTリアンデッキの整備
 - コスモスクエア駅前~伊藤忠商事用地までは、H22年3月に完成
 - コスモスクエア駅前~WTCなどは、施設の立地を前提に整備を推進

◎賑わいの創出と環境整備に向けて

◇R岸壁のフェリーターミナル化の推進 p.23

◇コスモスクエア開発協議会でのルールの見直しによる良質な景観形成の検討

◇大型車両の渋滞緩和 p.24 ・大阪港全体のコンテナ埠頭再編の推進など

◎交通利便性の向上に向けて p.25

◇大阪港咲洲トンネル利用料金の見直し

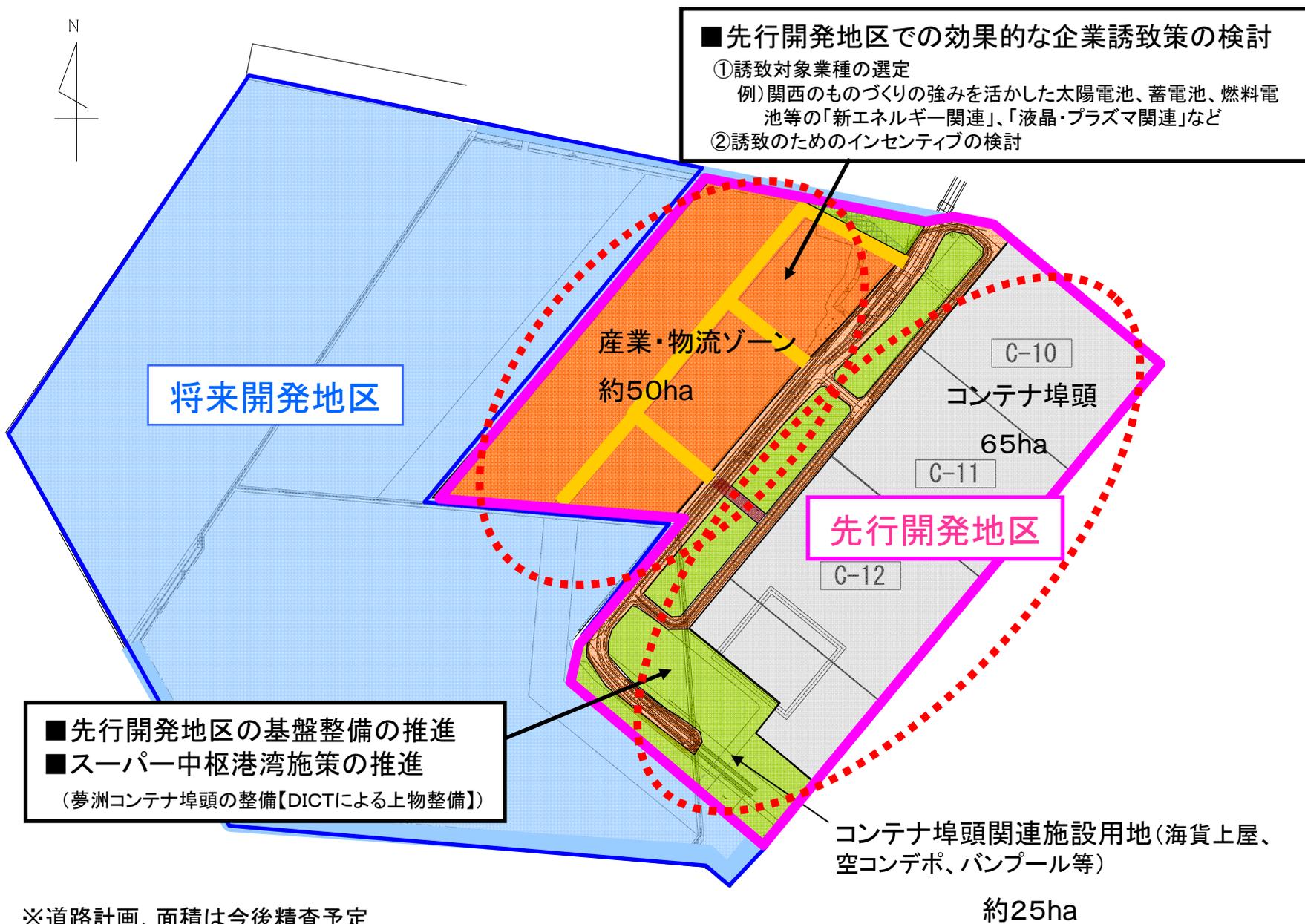
◇道路案内板の改良

◇地下鉄乗り換え案内の充実

◇阪神高速信濃橋渡り線の整備

《夢洲地区—先行開発地区での産業・物流拠点の形成に向けて—》

◇スーパー中枢港湾施策と基盤整備の推進、効果的な企業誘致策の検討



※道路計画、面積は今後精査予定

《コスモスクエア地区ービジネス交流拠点の形成に向けてー》

◇商談機能の充実、アジアビジネス交流機能の強化

今後の取組み

- アジア地域のニーズを捉えた販路拡大支援システムの構築
- アジア諸国の公的機関の立地誘致
- ものづくり関連の見本市や展示商談会の開催誘致
- コンベンション機能の充実（サイボス2012に対応できる設備改善等）

ねらい・目的

◎ビジネス交流拠点として

A T C

アジアビジネス交流機能の強化

- ・ 海外公的機関等の誘致
- ・ 活発なビジネス交流
(セミナーやビジネス情報の受発信)

インテックス大阪

商談機能の充実

- ・ セミナーやコンベンションと一体となった専門型見本市の開催
- ・ 海外見本市との連携
- ・ 積極的なバイヤーが集まり、効果的で活発な展示商談会
- ・ サイボス等の国際コンベンション開催

〈アジアの活力を取り込んで、アジアとともに発展する大阪〉

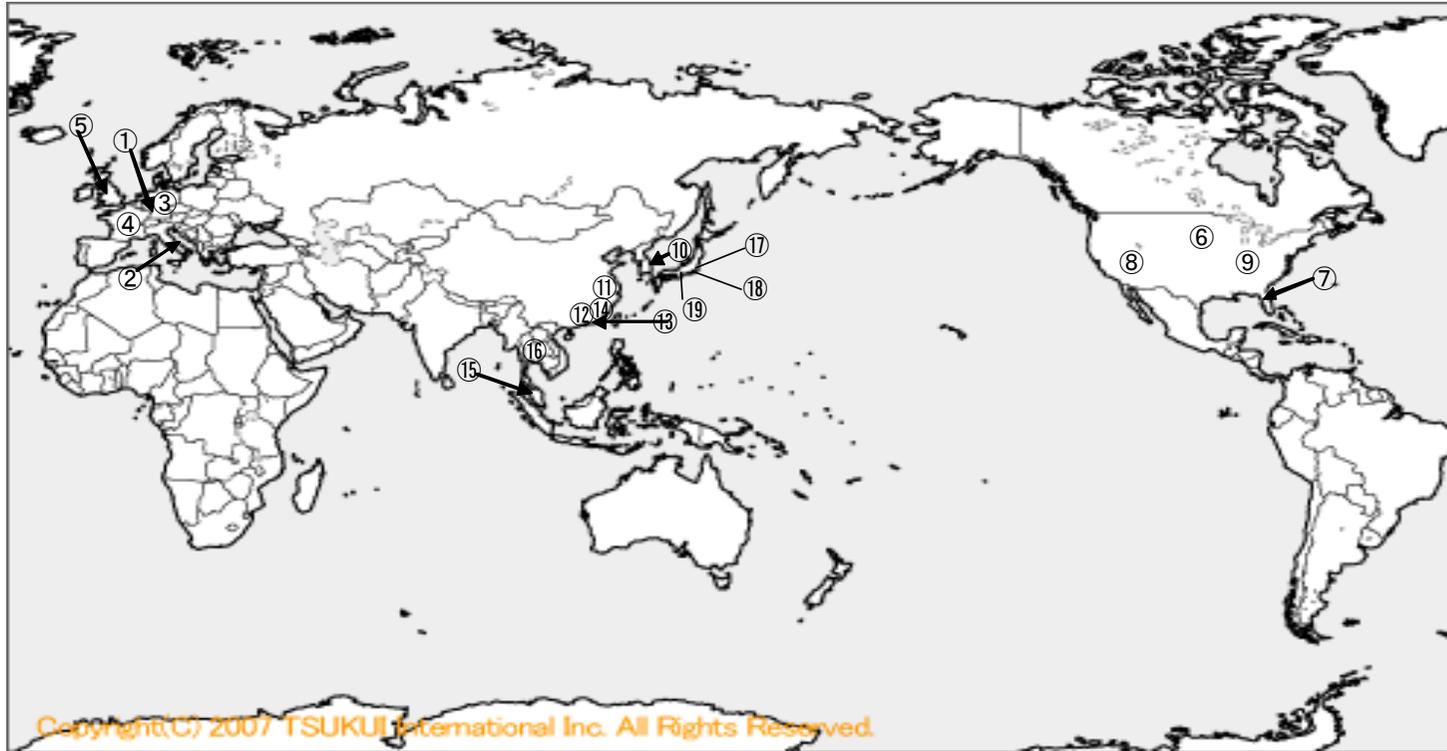
- ・ アジアの水平分業、生産ネットワークにおける大阪のビジネスチャンス
- ・ 急成長する南・東アジアの消費市場における大阪のビジネスチャンス

- ◇ 海外企業等の進出
- ◇ 投資機会の拡大
- ◇ ものづくり企業の販路拡大
- ◇ ものづくり企業との事業連携

南・東アジア諸国

(参考)

～商機拡大と地域経済に大きく貢献する見本市機能～



都市(国)	会場名称	展示床面積	都市(国)	会場名称	展示床面積
【欧州地域】			【アジア地域】		
① ハノーバー(ドイツ)	ハノーバー国際見本市会場	495,285㎡	⑩ ソウル(韓国)	KINTEX(韓国国際展示場)	53,541㎡
② ミラノ(イタリア)	フィエラ・ミラノ	345,000㎡	⑪ 上海(中国)	上海新国際博覧展中心	103,500㎡
③ フランクフルト(ドイツ)	メッセフランクフルト	321,754㎡	⑫ 深? (中国)	深?会議中心	105,900㎡
④ パリ(フランス)	パリ・エクスポ見本市会場	227,380㎡	⑬ 香港(中国)	香港コンベンション & エキジビションセンター	82,682㎡
⑤ バーミンガム(イギリス)	インターナショナルエキジビションセンター	200,000㎡	⑭ 広州(中国)	中国出口商品交易会流花路展示館	120,000㎡
【北米地域】			⑮ シンガポール(シンガポール)	シンガポールエキスポ	100,000㎡
⑥ シカゴ(アメリカ)	マコーミック・プレイス	204,481㎡	⑯ バンコク(タイ)	インパクトアリーナ、エキジビション & コンベンションセンター	60,000㎡
⑦ オーランド(アメリカ)	オレンヂ・カウンティ コンベンションセンター	190,875㎡	⑰ 千葉(日本)	幕張メッセ	72,000㎡
⑧ ラスベガス(アメリカ)	ラスベガス・コンベンションセンター	184,456㎡	⑱ 東京(日本)	東京ビッグサイト	80,660㎡
⑨ アトランタ(アメリカ)	ジョージア・ワールド・コンGRESSセンター	130,112㎡	⑳ 大阪(日本)	インテックス大阪	70,078㎡

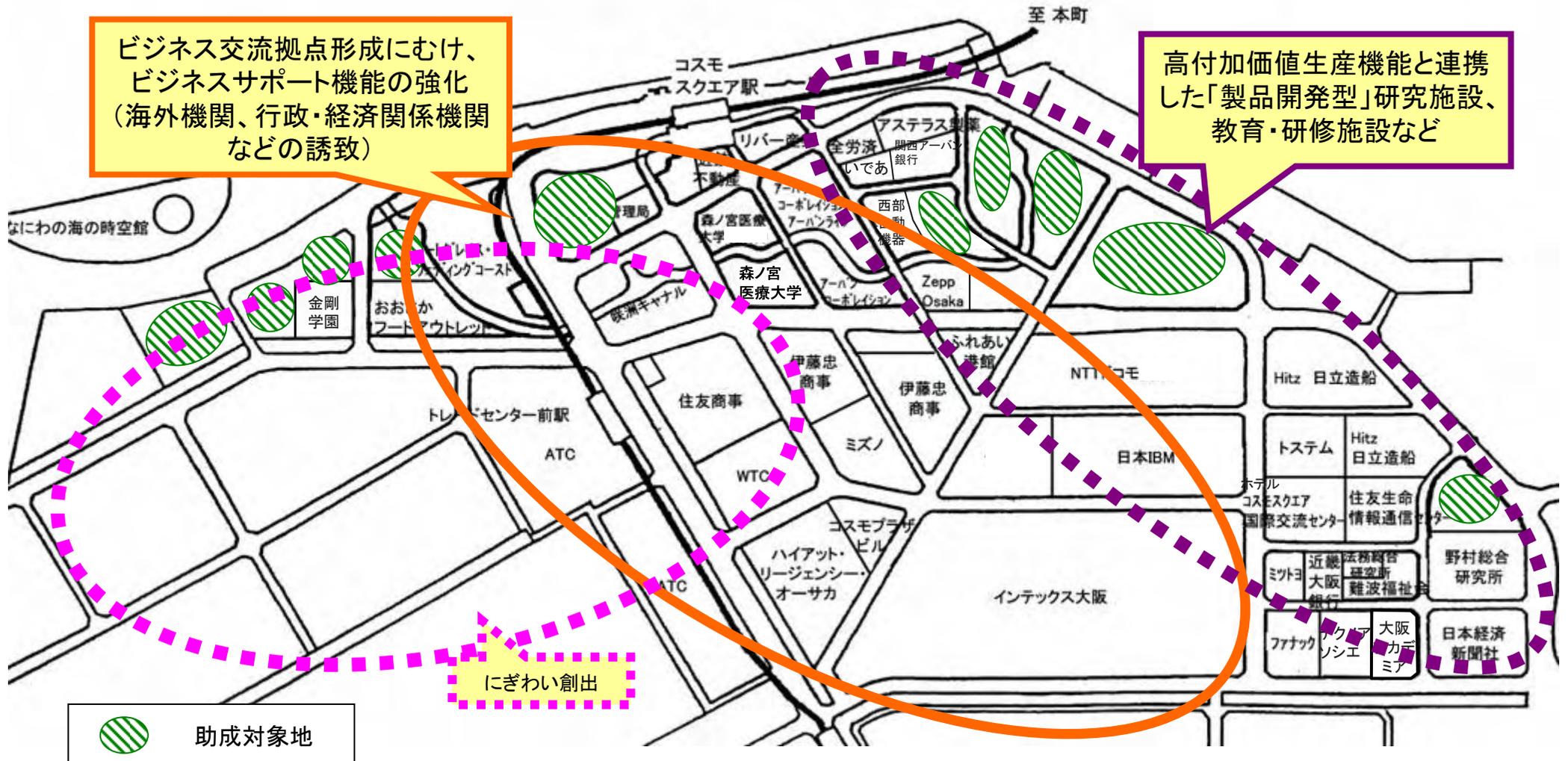
◇企業等の立地促進

ねらい・目的

- 高付加価値生産機能と連携した「製品開発型」研究施設、教育・研究・研修施設、ビジネスサポート施設などの立地誘導

今後の取り組み

- 咲洲コスモスクエア地区立地促進助成制度の充実
 - ・ 助成対象期間の延長（～H23年度末まで）
 - ・ 助成対象業種の見直し（「製造業」関連の研究開発施設等の追加等）



《コスモスクエア地区－賑わいの創出と環境整備に向けて－》

◇R岸壁のフェリーターミナル化の推進、コスモスクエア開発協議会でのルールの見直しによる良質な景観形成の検討

ねらい・目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちそのものの魅力を向上につながる、賑わいの創出 	今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 埠頭再編の一つであるR岸壁フェリーターミナル化の推進 ○ R岸壁背後地など地区西側の土地利用のあり方の再検討（中長期） ○ コスモスクエア開発協議会でのルールの見直しによる良質な景観形成の検討
--------	--	--------	--

R岸壁背後の土地利用のあり方の検討(中長期)

コスモスクエア開発協議会でのルールの見直しによる良質な景観形成の検討

R岸壁のフェリーターミナル化の推進

南港コスモフェリーターミナル

◇大型車両の渋滞緩和

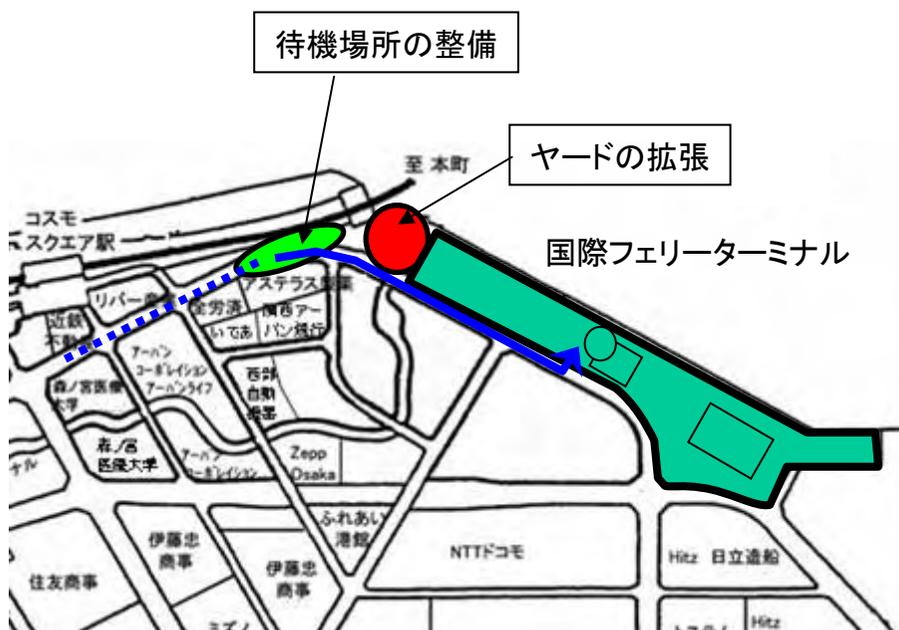
ねらい・目的

- 大型車の渋滞緩和に向けた、平成20年代前半を目標とした既存コンテナ埠頭の再編による交通量の総量抑制

今後の取組み

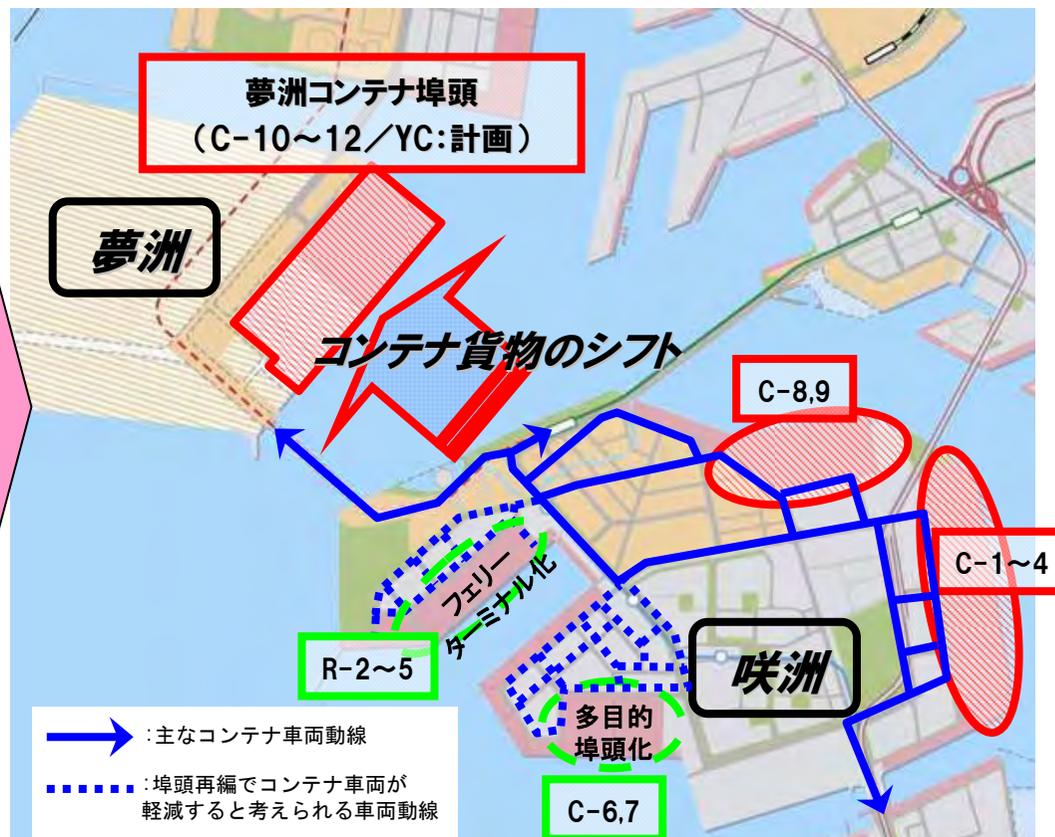
- スーパー中枢港湾を契機とするコンテナ埠頭の再編の推進（中長期）
- 当面の取組みとして、国際フェリー待機場所の整備、ヤードの拡張

国際フェリーターミナル付近の渋滞対策(当面)



- : 国際フェリーに関するコンテナ車両動線
- ⋯ : 待機車両が減少すると考えられる車両動線

コンテナ埠頭の再編(中長期)



- : 主なコンテナ車両動線
- ⋯ : 埠頭再編でコンテナ車両が軽減すると考えられる車両動線

《コスモスクエア地区－交通利便性の向上に向けて－》

◇大阪港咲洲トンネル利用料金の見直し、道路案内板の改良など

ねらい・目的

- コスモスクエア地区への来訪者の増加や、企業立地・入居の進展

今後の取組み

- 大阪港咲洲トンネル利用料金の見直し
- 利用者にとって分かりやすい道路案内板の改良
- 地下鉄乗り換え案内の充実
- 阪神高速信濃橋渡り線の整備

現状

- ・休日の咲洲来訪者(主に消費目的)の多くは自動車利用志向が強い
- ・平日においても、休日を上回る自動車が来訪している(主に業務目的)
- ・トンネル利用料金の負担感が強い

■大阪港咲洲トンネル利用料金の見直し(21年度)

- 10月から普通車の通行料金を200円から100円に減額

期待される効果

- 来訪者の増加
- 企業立地・入居の進展
- ⇒ まちの活性化

平成20年度の大阪港咲洲トンネルの1日当りの平均利用台数 (H20.4~H21.1)

	平日	休日(土日祝)
合計	14,700台	9,100台
普通車	8,100台	5,800台
大型車	6,600台	3,300台

夢洲

大阪港咲洲トンネル

地下鉄乗り換え案内の充実



咲洲

道路案内板の改良



7. 今後のスケジュール(参考)

	これまで	短期(平成21-23年度)	中期(平成24-27年度)・長期	
夢洲地区	スーパー中枢港湾埠頭等の整備	先行開発地区(約140ha)の基盤整備の推進	効果的な企業誘致策の検討	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 高付加価値ものづくりや効率的な物流を実現するゾーンの形成 </div>
		土地利用の促進	将来開発地区約(250ha)の土地利用計画の具体化	
咲洲コスモスクエア地区	民間企業等の誘致	助成制度の充実による企業立地の促進		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> 高付加価値生産機能の発展を支え、にぎわいなどの魅力も備えたエリアの形成 </div>
	歩車分離などの歩行者環境の改善	大型車の渋滞緩和に資する取組み 交通利便性の向上につながる取組み	R岸壁の背後地の土地利用のあり方を検討	
	R岸壁のフェリーターミナル化の推進	インテックス大阪の機能等の検討		